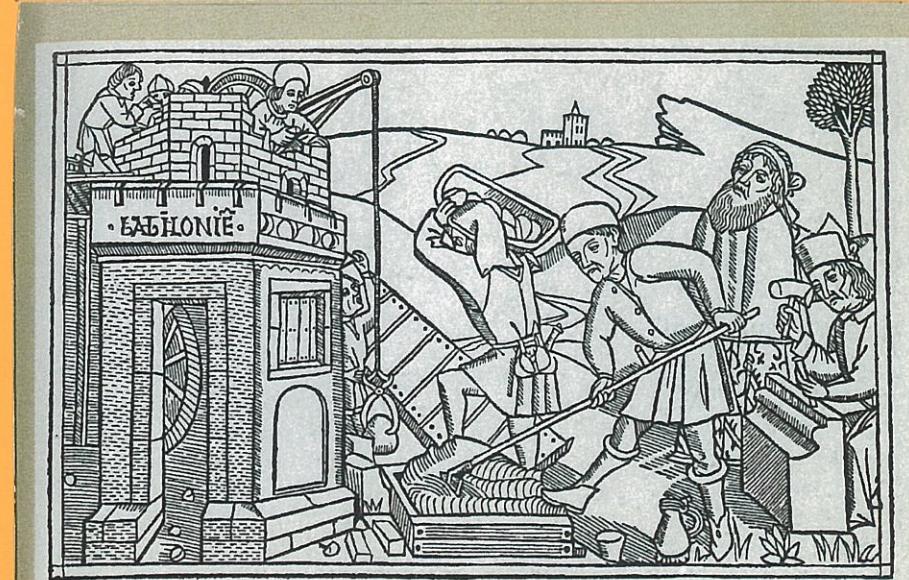


「バベルの塔」ってなんだろう？^{とう}

～旧約聖書『バベルの塔』の物語に
かくされた謎を徹底解剖！～



八王子市立 緑が丘小学校

6年2組 23番
古市 明日香
ふるいち あすか

表紙の絵

ケルンの聖書

木版画

1479年頃



目次

はじめに

1

ブリューゲルの描いた『バベルの塔』のモデルは？

12

ブリューゲルの『バベルの塔』

2

『バベルの塔』の物語、てどんなお話？

3

『バベルの塔』の物語は、いつ、どこで、だれがつくったの？

4

『バベルの塔』の物語 徹底解剖④
シンアルの地

5

『バベルの塔』の物語 徹底解剖⑤

石とモルタル、レンガとアスファルト(1)

6

『バベルの塔』の物語 徹底解剖⑥

石とモルタル、レンガとアスファルト(2)

7

『バベルの塔』の物語 徹底解剖⑦
バビロン捕囚

8

『バベルの塔』の物語 徹底解剖⑧

ジックラトについて知ろう①

9

ジックラトについて知ろう②

10

ジックラトについて知ろう③

11

『バベルの塔』の物語 徹底解剖⑨
ノアの方舟船

14

「産めよ、増えよ、地に満ちよ」

15

『バベルの塔』の物語 徹底解剖⑩
ユダヤをとりまく言語

16

『バベルの塔』の物語 徹底解剖⑪
「混乱の塔」

18

バビロンの流れのほとりで
——旧約聖書『バベルの塔』に込められた
ユダヤの人々の思い——

19

バビロン捕囚の歌

20

おわりに

21

参考・引用文献

はじめに

私は小さい頃から美術館に行くのが好きです。幼稚園の頃から、新型コロナ流行が始まる前の、3年生の終わり頃までは、毎週あちこちの美術館に行きました。そして、色々なジャンルの絵や版画や立体作品等を観ることが大好きになりました。特に好きなのは、「建築」に関する美術展です。

「建築」に興味を持ちはじめたのは、私が一年生になった年の夏のはじめの頃でした。私は、東京都美術館で開催されていたブリューゲルの『バベルの塔』展という展覧会を観に行きました。その展示で観たのが、今回調べ学習をするきっかけとなったブリューゲルの『バベルの塔』の絵です。

この絵を見た時、私はすごく引き込まれました。絵の中で塔を建設している人達がアリよりも小さいくらい小さくて、まるで空からある大きな街を見ているみたいだな、と思いました。美術館だから絵にそんなには近づくことは出来ないけれど、その絵にのって、虫めがねで目を近づけてすみからすみまで見たい!!と思ふくらいでした。

ブリューゲルの描いた『バベルの塔』は、その建物 자체も、また、人々のこまかい様子も全部大迫力で、私が「建築」が好きになるきっかけになった絵でした。

でも私は、この伝説の塔は旧約聖書の中出てくる建物だということだけしか知らないままだったので、中学生になるまで



『バベルの塔』 ピーテル・ブリューゲル
1563年

には、私は絶対に、このブリューゲルの『バベルの塔』についてくわしく知りたい、と思っていました。だから、この調べる学習コンクールの場を借りて、今回、自分が「建築」を好きになるきっかけとな、た『バベルの塔』についてくわしく徹底解剖していこうと思います。

調べ方は、まず『バベルの塔』の伝説が出てくるという『旧約聖書』についての本を中心に探していくことにしました。今から二千年以上も前の内容を中心に調べていくことになり、図書館で調べていくことにしました。

✿今回の調べに出てくるマイキャラとマーク



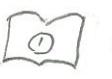
…今回の調べの進行を助ける私の分身です。



…自分の疑問に対する答えとなる、本で知ったことを書く所に書きます。



…難しい言葉の意味を書くところにはります。

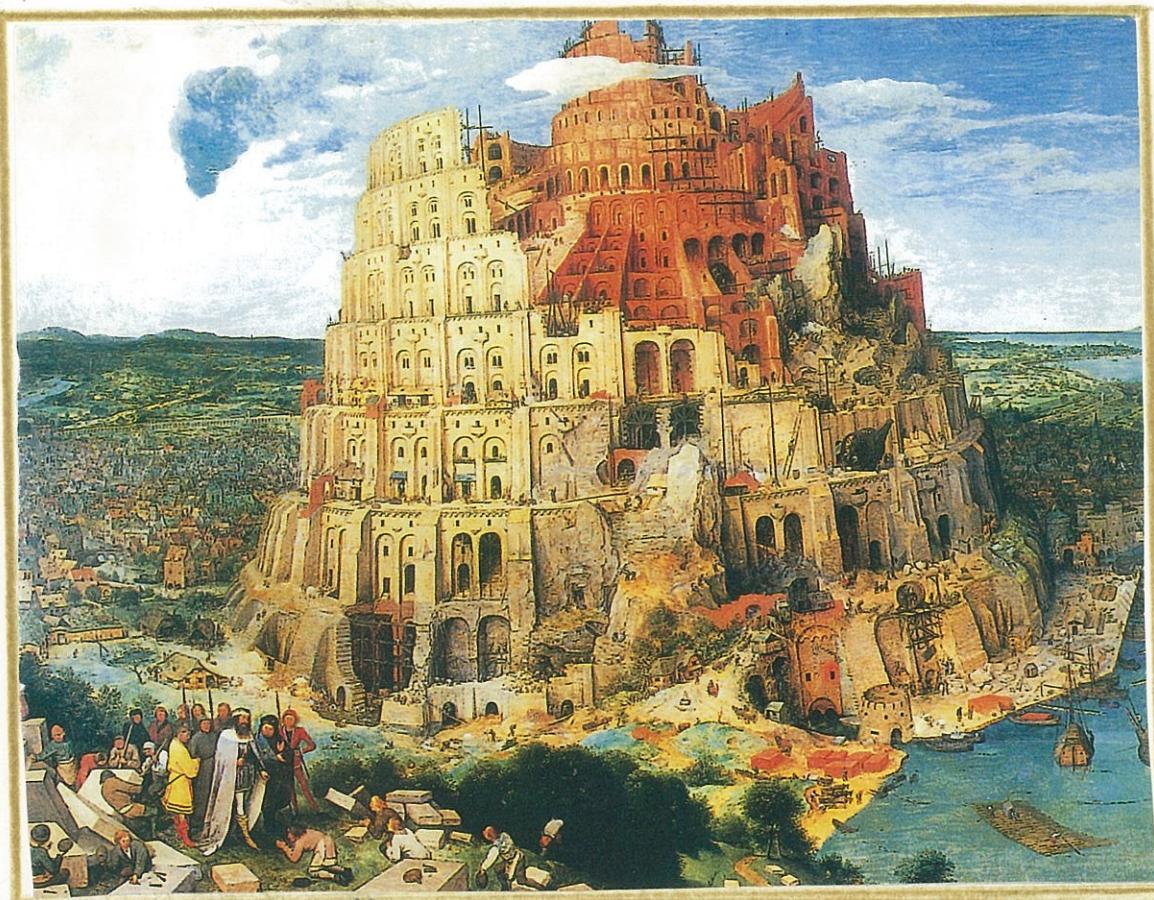


…文や写真や図等を引用した本の番号です。

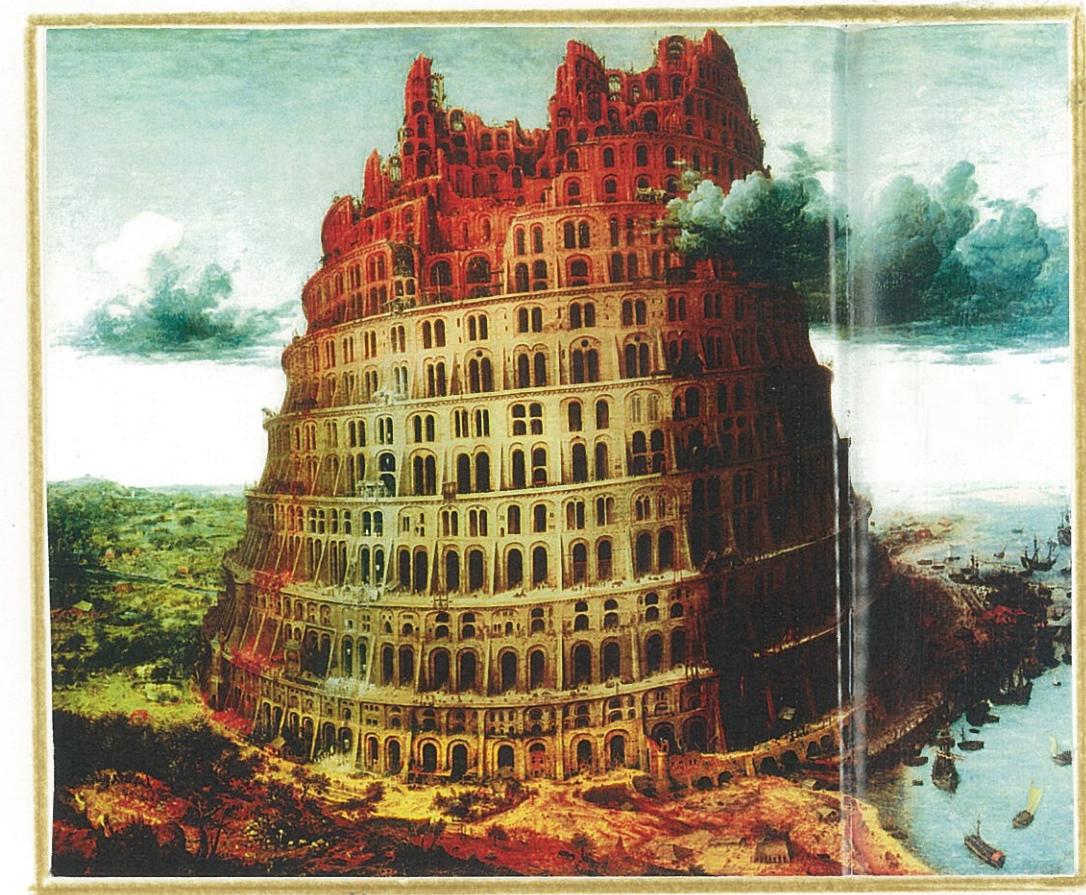
(「おわりに」のうしろの「参考・引用文献」の本の番号を見て下さい。)

ブリューゲルの『バベルの塔』

下の2つの絵は、
ピーテル・ブリューゲル(父)という画家
が描いた『バベルの塔』です。



バベルの塔 ピーテル・ブリューゲル(父) 作
1563年 114×155 cm



バベルの塔 ピーテル・ブリューゲル(父) 作
1554～1555年 60×74.5 cm

ピーテル・ブリューゲル(父)って、どんな画家？

ピーテル・ブリューゲル(父)は、1500年頃、フランドル地方（今のベルギーのあたり）で活やくした画家です。

ブリューゲルの絵は、描かれている物の音や、人々の声が聞こえてきそうな、細かく精密な絵が特ちょうです。

ブリューゲルは、私達が毎日送っているような日常生活の様子を描いていたり、実際にはないけれど、実際あったら、楽しそうなことを描いていたりしています。

細かい部分まで1つ1つじっくり夢中で見入ってしまうような絵をたくさん創作した画家です。

『バベルの塔』とは？

『バベルの塔』は、旧約聖書という聖書の中にある、物語に出てくる塔のことです。

上の2つの絵は、その塔を絵にしたもので、『バベルの塔』の物語の塔はブリューゲルだけでなく、他の様々な画家が絵にしています。

『バベルの塔』の物語って
どんなお話なのだろう？



『バベルの塔』の物語って、どんなお話？

『バベルの塔』の物語
旧約聖書 創世記 11章 1~9節

全地がひとつのかたちの言語、同じことばであったときである。彼らは東へ移動し、シンアルの地に平地を見つけ、そこに住みついた。彼らはたがいにいった。「さあ、レンガをつくり焼き上げよう。」彼らには石のかわりにレンガが、モルタルのかわりにアスファルトがあった。彼らはいった。「さあ、都市といただきか天にとどく塔を建てよう。私たちのために名をなして、全地のおもてにちらされることがないようにしよう。」

ヤハウェはくだり、人の子らがたてた都市と塔とを見た。ヤハウェはいった。「みよ、彼らはひとつのかたちの民であり、みなにはひとつのかたちの言語がある。そして、これこそ彼らがはじめたことなのだ。いまや彼らがしようとくわだてるあらゆることをはばむものはない。さあ、われらはくだり、そこで彼らの言語を混乱させよう。そうすれば、彼らはたがいの言語をききとれなくなるだろう。」

こうして、ヤハウェはそこから彼らを全地のおもてにちらした。彼らはその都市をたてるのをやめた。それゆえ、その名をバベルとよんだ。ヤハウェがそこで全地の言語を混乱させたからである。

ヤハウェはそこから彼らを全地のおもてにちらした。



うーーむずかしい文だなあ……。

旧約聖書の『バベルの塔』の物語のストーリーを見てみましょう。

『バベルの塔』の物語を分かりやすくすると…

むかし、むかし、人々は同じ言葉を話していました。人々は東の方のシンアルの地に移り住みました。その地では石のかわりにレンガが、モルタルのかわりにアスファルトがとされました。そして人々は、自分たちのいたいさをしめして、世界中にちらばらないように、天にとどくほど高い巨大な塔をつくりはじめました。

しかし、それを天から見ていたイスラエルの神ヤハウェは、人々の思いあがりに腹を立て、一つの言語、一つの民だからこうすることをしたのだと考え、人々の言語を混乱させました。

そして話が通じ合わなくなってしまった人々は都市と塔の建設をやめ、巨大な塔は完成せずに、人々は各地へちっていきました。そのため、この都市や塔は、のちにバベルとよばれました。



あ、そういうことが！

このお話って、
いつ、どの国で、だれが
つくったのでしょうか？



? シンアルってどこ?



このお話の舞台の地名なの
ではないですか？



『バベルの塔』の物語は、いつ、どこで、だれがつくったの？

・いつのお話？

はっきりと『バベルの塔』の物語が書かれた時期は本にのっていませんでしたが、旧約聖書が書かれたのは、紀元前600年代から紀元前100年代頃までなので、この物語が書かれたのも、その期間のうちのどこかだと考えられます。

言葉
コーナー

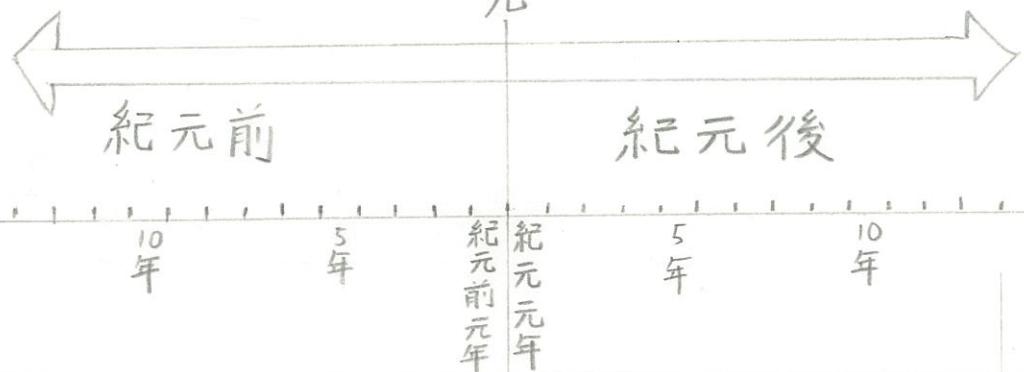
「紀元前」とは？

「紀元前」の「紀元」とは…

歴史上の年数を数える時の基準のこと。
現在一般的には、イエス・キリストが生まれたとされる年を紀元元年（紀元1年）とする、西暦紀元が使われている。

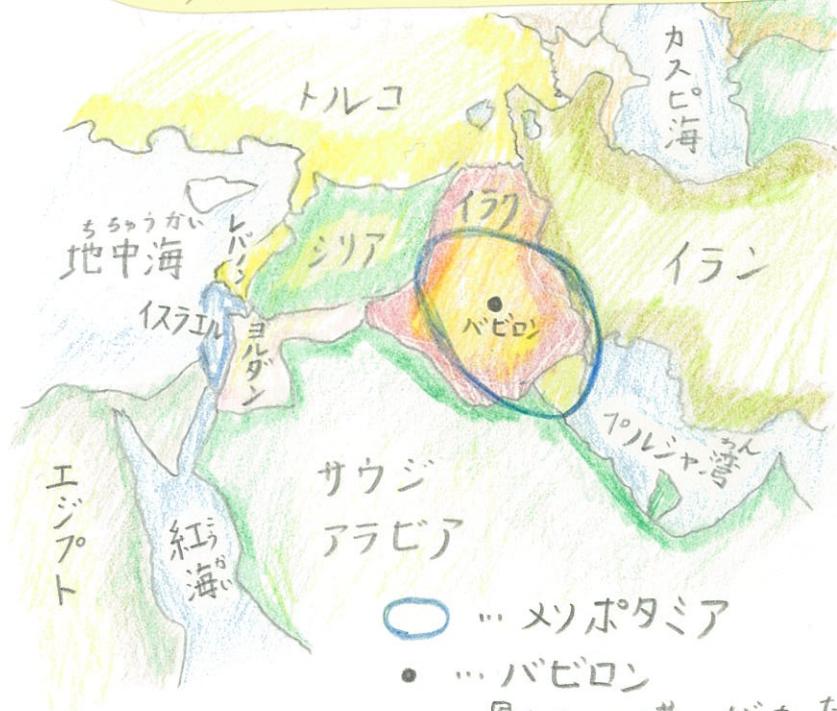
この紀元より前の年を紀元前〇〇年といい、
この紀元より後の年を紀元〇〇年という。
紀元元年より一年前の年を「紀元前元年」、その前を「紀元前2年」というようにさかのぼって数えていく。

紀元



・どこの国のお話？

『バベルの塔』の物語に出てくる塔は、紀元前に今のイラクに広がっていた、「メソポタミア」という地域中の都市、バビロンにあったといわれています。



…メソポタミア

…バビロン

『バベルの塔』があつ
とされる場所

『バベルの塔』があつたといわれている
場所がバビロンだから、この物語の
舞台は、バビロンだと考えられます。

メソポタミアって
どんなところ？
地図に描いてあるって
世界のどのあたり？

(4)

・だれが つくったの？

『バベルの塔』の物語が書かれている、旧約聖書をつくったのは、ユダヤ人（イスラエル民族）なので、『バベルの塔』の物語をつくったのもユダヤ人だと分かります。

ところで…今まで
何回かでてきた
「旧約聖書」ってなんですか？

(6)

旧約聖書ってなに？

旧約聖書は、ユダヤ人（イスラエル民族）が、長い歴史の中で書いた、様々な文書を集めたものです。ヘブライ語という文字で書かれていて、39冊の文書から構成されています。

『バベルの塔』の物語は、『創世記』という文書の中に書かれました。

旧約聖書の主な舞台は、イスラエル民族が暮らしていたハ・レスチナという地域だといわれています。

ヘブライ語
文字

7月号

(6)

『バベルの塔』の物語 徹底解説

① シンアルの地

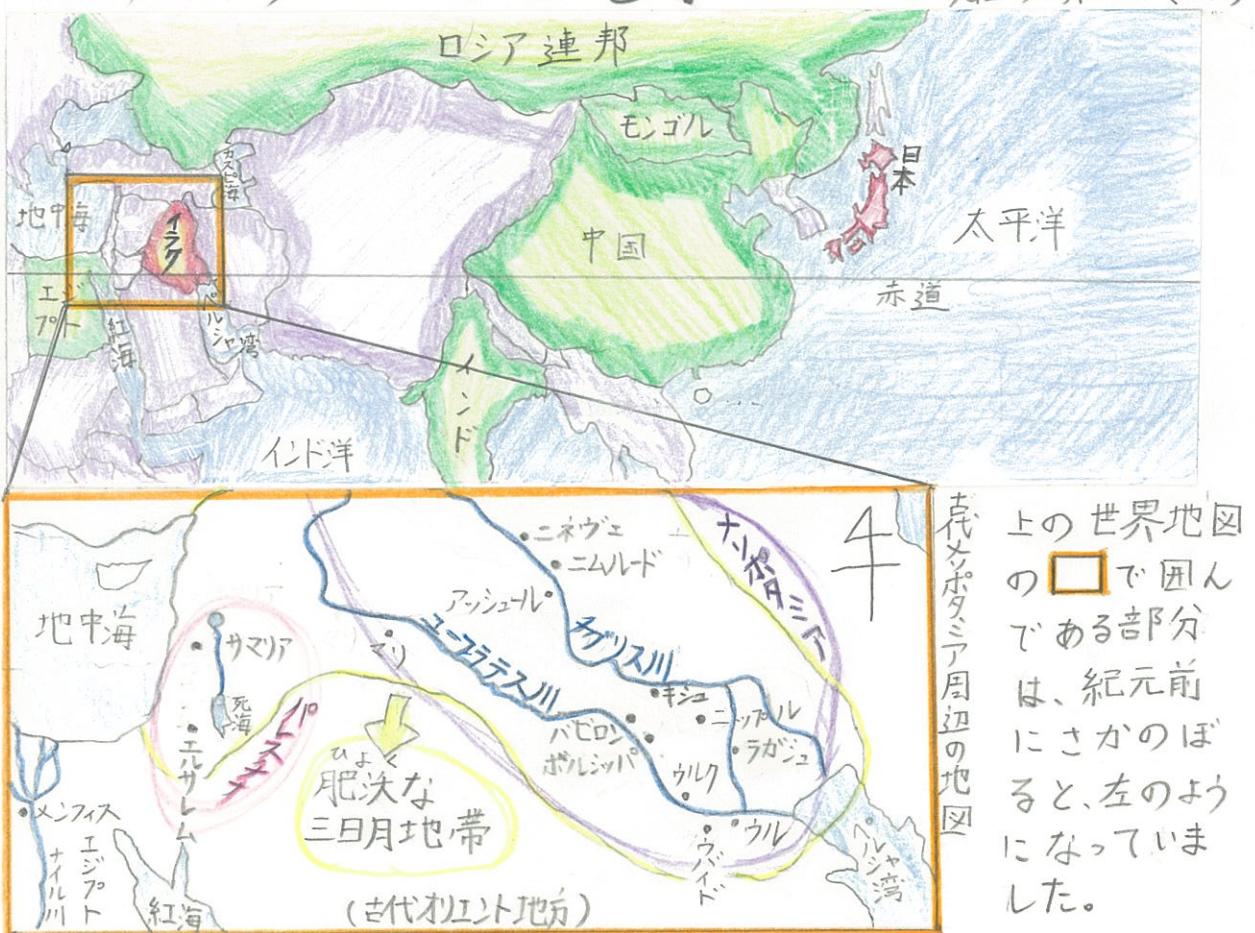
P.3に書いた『バベルの塔』の物語の文から生まれた疑問をこれから調べていきます。

旧約聖書 創世記 『バベルの塔』の物語(部分)

全地がひとつの言語、同じことはあつたときである。彼らは東へ移動し、シンアルの地に平地を見つけ、そこに住みついた。

疑問

シンアルの地ってどこ?



現在の世界地図(部分)

上の世界地図の□で囲んである部分では、紀元前にさかのぼると、左のようになっていました。

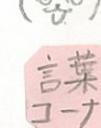


ユーラシア大陸の東の日本とは遠くはなれたところに、イラクという国があります。そこは、古代ではメソポタミアという地域でした。「シンアル」はこのメソポタミアを指しています。旧約聖書の文書に使われているヘブライ語で「バベル」は「バビロン」を指しています。だから、「バベルの塔」の物語では、「シンアル」は「バビロン」を指していることが考えられています。

左下の「古代メソポタミア周辺の地図」の、ペレスチナとか、肥沃な三日月地帯とかってなんですか?



おやおや、また難しい謎がでてきたなあ。



肥沃な土地とは?

土が良くて、作物がよく育つ豊かな土地のこと。



なるほど~。ところで、メソポタミアってどんなところなのだろう?

「肥沃な三日月地帯」

メソポタミアとペレスチナ左下の地図の、ペルシャ湾から地中海にかけての黄色で囲んである地域

(5) (5) を「肥沃な三日月地帯」といいます。ここには、

メソポタミアの他に旧約聖書をつくったユダヤ人(イスラエル民族)の住んでいたペレスチナも入っています。

メソポタミアってどんなところ?

世界最古のメソポタミア文明

メソポタミアは、四大文明といふ世界を代表する4つの文明の中で、一番古い文明を築いた地です。この文明をメソポタミア文明といいます。何千年前の紀元前に栄えました。

この文明で、右のような世界初の文字、楔形文字が発明され、農業、牧畜も始まりました。

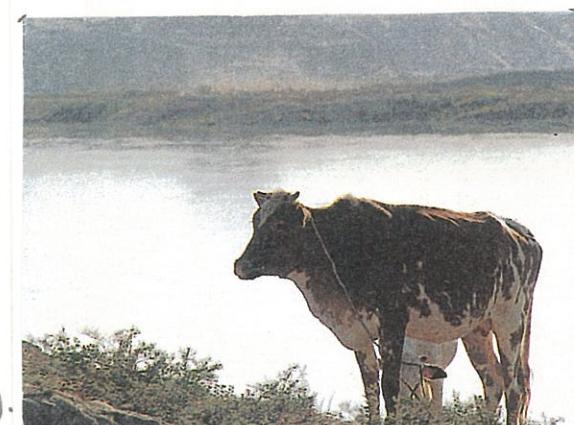
メソポタミアのめぐみ エーフラテス川とチグリス川

メソポタミアには、2つの大きな河が流れています。この2つの河は、肥沃な泥を上流から運んできたり、人々の移動の道筋になったりして、文明を発展させました。

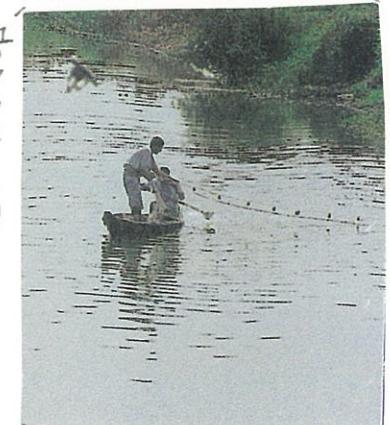


楔形文字

(35)



エーフラテス川
チグリス川



2枚とも
(35)

『バベルの塔』の物語 究底解剖

旧約聖書 創世記 『バベルの塔』の物語(部分)

彼らはたがいに言った。「さあ、レンガをつくり焼き上げよう。彼らには石のかわりにレンガが、モルタルのかわりにアスファルトがあった。

疑問

「石」「レンガ」「モルタル」「アスファルト」は何に使う?

『バベルの塔』の物語は、人々が天にとどくほど高い塔を建てはじめて、神さまが腹をたてる、というお話なので、「石」「レンガ」「モルタル」「アスファルト」は建物を建てるための材料だと考えられています。

(?) アスファルトって、
道路工事に使うもの
だよね。

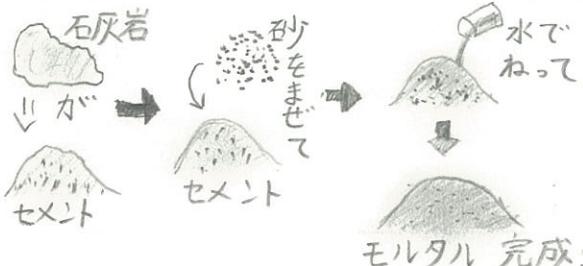
4つの材料はそれぞれ
どんなものなのか調べて
みよう!

4つの材料調べ

モルタルとは?

石灰岩という石を原料とするセメントに、砂を混ぜあわせて、水で練ったもののことです。

現在では、ガベぬりや、タイルなどのフジ合わせに使われています。古代でも使われていて、主に石と石をつぎ合わせる時などに使っていました。



石とは?

建物を建てるための石は、小石ではなく、巨石を使います。建物を建てるために使う石を石材といいます。

古代ではさかんに使われていました。巨石が集まっているところを石切り場として、そこから特徴的な道具で石を切り出して、大勢で巨石を運び出で、石材として使っていました。

徹底解剖

アスファルトとは?

原油(地下からくみ上げたままで使えるようにしていない石油)からとれる、黒くてねばねばしている部分のことです。

現在では、道路のほう等に使われています。古代でも使われていて、主にレンガとレンガをつぎあわせる時や、建物や舟の防水加工などに使っていました。

レンガとは?

粘土に砂や石灰などを混ぜて、長方形の型に入れ、焼いたものです。建築等に使われています。古代でも使われていました。

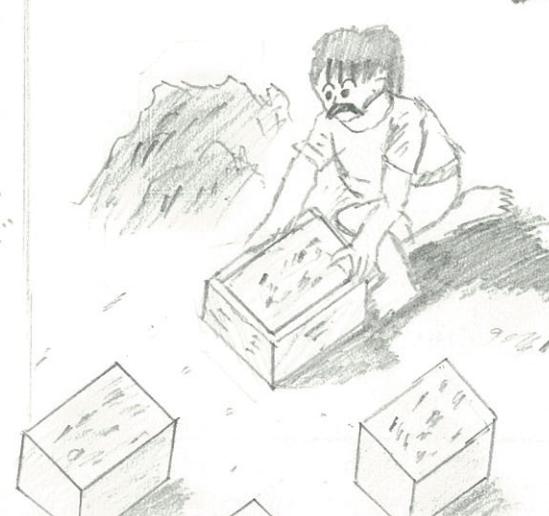
しかし、古代では造り方は少しちがいました。古代では、日干しレンガとよばれるレンガを使っていました。

古代の日干しレンガの造り方

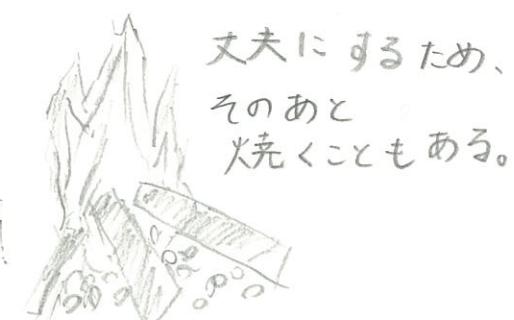


チグリス川や
ユーフラテス川から
粘土や泥をとてくる。

その泥、粘土にまんだ
麦わら、水を入れ、
混ぜる。



木の型にはめ、
型どりをして
から、太陽の
光でかわかす。



『バベルの塔』の物語 徹底解剖

旧約聖書 創世記 『バベルの塔』の物語（部分）

彼らはたがいにいった。「さあ、レンガをつくり、焼き上げよう。彼らには石のかわりにレンガが、モルタルのかわりにアスファルトがあった。」

疑問

石の「かわり」にレンガ、モルタルの「かわり」にアスファルトとはどういうこと？



徹底解剖団で分かっているように、ユダヤ人は、この物語のはじめにシンアルの地に移り住んでいます。旧約聖書を書いたユダヤ人はもともと肥沃な三日月地帯の西のはじのパレスチナに住んでいた、ということも分かっています。

だから、移り住む前のパレスチナの、建物を建てる材料は石とモルタルだったけれど、移り住んだ後のシンアルの地では石とモルタルが手に入らないから、レンガとアスファルトを使った、というように考えられます。

シンアルに移り住む前に暮らしていたパレスチナと、移り住んだ後のシンアル、それぞれの建物を建てる材料を、本で調べて確かめてみよう！

古代 パレスチナ

古代パレスチナで使われていた建物の材料は……

石とモルタル

ユダヤ人が住んでいたパレスチナでは、巨石や、モルタルの原料の石灰岩が豊富にとれます。だから、パレスチナでは、建物の材料に石とモルタルを主に使っていました。



やっぱり!!



エルサレムの西壁

③ 石とモルタル、レンガとアスファルト（2）

また、古代パレスチナでは、基本的には建物を建てる時、左下の写真のかべのようにになります。まず、石で基礎部分のかべをつくって、その上に日干しレンガを重ねていくというやり方です。しかし町の門など重要な建築物は日干しレンガよりも丈夫な石が使われました。

シンアル（古代メソポタミア）

シンアル（古代メソポタミア）で使われていた建物の材料は

レンガとアスファルト

(36) ゴボゴボとふき出す天然アスファルト

『バベルの塔』の物語の舞台であるメソポタミアでは、巨石や石灰岩があまりとれません。しかし、この地では、泥や粘土が川から豊富にとれます。前のページに書いたように、泥や粘土から日干しレンガをつくり、石のかわりにしていました。

また、この地ではモルタルの原料、石灰岩があまりとれませんが、天然のアスファルトがとれました。南メソポタミアでは、地面の中に原油がたくさんうまっているので、天然のアスファルトが上の写真のようにふき出しがあります。この天然アスファルトでモルタルのようにレンガとレンガをつき合わせたり、防水効果があるのでレンガにぬったりしていました。

ユダヤ人は、故郷のパレスチナと、移り住んだシンアルの地の建物を建てる材料をお話にとり入れたのですね。



『バベルの塔』の物語 徹底解剖 ④ バビロン捕囚

ユダヤ人が「シナアルの地」に移り住んだ理由とは?

ここまで調べてきて、気になったこと

そもそもユダヤ人はなぜ、この物語の中で「シナアルの地」に移り住むことになったの??

パレスチナとメソポタミア、2つの土地の建物の材料も実際のことと一致していたし、もしも、このお話を本当にあたことをもとに書かれているとしたら、もしかしたら、実際にユダヤ人がパレスチナからメソポタミアに移り住んだ、という歴史があったのではないか、と気になってしまった。

(8) パレスチナからメソポタミアって
そんなに簡単にひっこすような距離じゃないよね。

(9) もし実際に移り住んだのなら、よっぽどの理由があったのではないでしょうか。

そこで、旧約聖書の時代の出来事について書かれた本や、紀元前のユダヤ人の歴史について書かれた本を読んでいくと、「バビロン捕囚」という実際にあた出来事が、重要な出来事だと考えられていることが分かってきました。

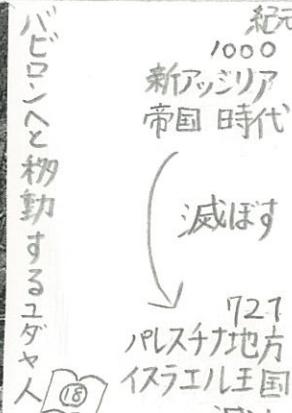
バビロン捕囚ってなに?

バビロン捕囚とは…

バビロン捕囚は、パレスチナ地方の中の南側の王国、ユダ王国の技術を持った人、権力を持った人達が3回にわたり新バビロニア王国というメソポタミア地方の王国の首都バビロンに強制移住させられた出来事です。

ユダ王国の王や、権力を持っている人達の多くは処刑されました。3回のバビロン捕囚の合計人数は約4600人といわれています。

パレスチナ地方

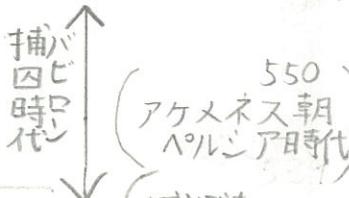
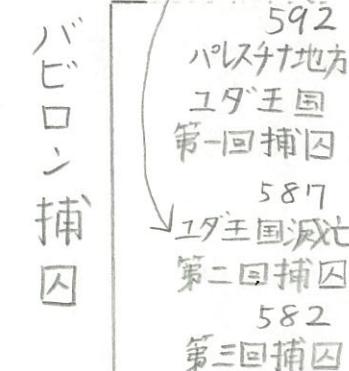


ユダ王国からメソポタミアのバビロンまではすごく遠いので、ユダヤ人は行くまでもすごく苦労をしました。

＜バビロンでのユダヤ人の暮らし＞

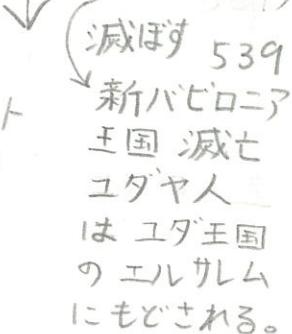
ユダヤ人は、バビロンで強制労働させられましたが、自由が夕方か、たとうです。自分達の村をつくり、集会をすることも許されていました。しかし、自國の神殿はこわされて、この地に神殿をつくることも出来ないので、ユダヤ人は言葉での礼拝を行ふようになりました。

ユダヤ人は、5、60年の捕囚生活を送り、紀元前539年にユダ王国に帰されました。



徹底解剖図④を通して自分なりに考えたこと

「石のかわりにレンガが、モルタルのかわりにアスファルトがあた。」という書き方は、ユダヤ人がバビロン捕囚で連れてこられた時、「バビロンでは、パレスチナで自分達が使っていた石とモルタルのかわりにレンガとアスファルトを使う」と知り、それを物語にとり入れたバビロン捕囚の記録のような部分もあるのではないか、と思いました。



『バベルの塔』の物語 徹底解剖

5 ジックラトについて知ろう①

旧約聖書の『バベルの塔』のモデルになった建造物、てあたの？

(?) 本当にユダヤ人が「バビロンで巨大な塔を建てたのかな？

もしもしたら、連れてこられたバビロンで見た建造物がモデルになっている、ということを考えられますね。



バビロンがあったメソポタミアについての本を調べてみると、その頃としては高い塔の神殿がバビロンにあったことが分かりました。「ジックラト」とよばれるその神殿が旧約聖書のお話に出てくる『バベルの塔』のモデルになったといわれています。この「ジックラト」はバビロンだけでなく、メソポタミア中にたくさん建てられたことが分かっています。

(?) 「ジックラトって、エジプトのピラミッドのようなものかな？」

ピラミッドはお墓だといわれているけれど、この「ジックラト」は神殿のようです。

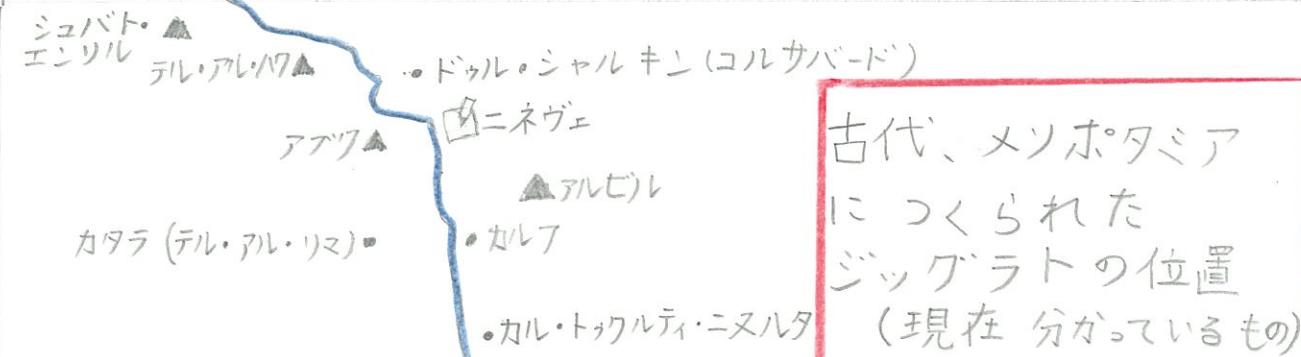
ジックラトについて知ろう!!

古いものでは、紀元前3000年頃からメソポタミアでたくさんつくられた神殿です。レンガをたくさん積み上げて、何層にも高くした、高層神殿とよばれる建物です。

それぞれの都市につくられたそれぞれのジックラトで、月の神、水の神、空の神など、ちがう神さまがまつられています。

(?) ユダヤ人は、連れてこられたバビロンで見たジックラトを『バベルの塔』のモデルにしたんだね！

バビロンの他にどこにあるのでしょうか？



徹底解剖⑤ フラス（ジックラトについて知ろう②）

高層神殿 ジックラトの役割

ジックラトは、あくまでも神殿なので、神さまに礼拝する場でもあります。もう一つ、役割があります。

それは、「天と地を結ぶ」ということです。ジックラトは、高さが高いので、「天に近づく」ということになります。その頃人々は天と神を宗教的に強く結びつけていたので、高いところに神殿をつくることは、礼拝する時、神に近づくことが出来る、ということです。だから、ジックラトは、高いことで「天と地を結ぶ」という役割をしていたのです。

ジックラト1つ1つにつけられていた名前

ジックラトには、それぞれ1つ1つ名前がつけられていました。それらの名前は、ほとんど、「天と地を結ぶ」という意味に関わっています。

* それらは、古代メソポタミアで使われていたシュメール語という言語の楔形文字で書かれたものを学者が発掘して解読したそうです。

古代メソポタミアの代表的な都市のジックラトにつけられた、名前と意味

言葉 石楚… ものごとの入もと。基礎
ユーナ

都市名	ジックラトの名前	名前の意味
ウル	エ・テメン・ニグル	畏れるべき石楚の家
バビロン	エ・テン・アン・キ	天地の石楚の家
ニッフブル	エ・ドゥル・アン・キ	天と地をつなぐ家
キシュ	エ・フルサグ・カラ・マ	その地の山の家

ジックラトはどうのようにつくられたの？

ジックラトを建てるために古代メソポタミアの人々が使った材料は… 日干しレンガと天然アスファルト

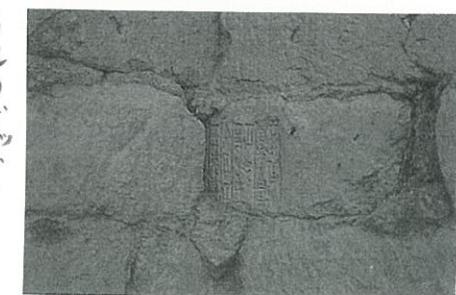
P. 6 に書いたように、メソポタミアでは、巨石、石灰岩はあまりとれず、泥、土、天然アスファルトは豊富にとれるので、日干しレンガと天然アスファルトでジックラトはつくられました。

しかし、

日干しレンガには大きな問題があります。



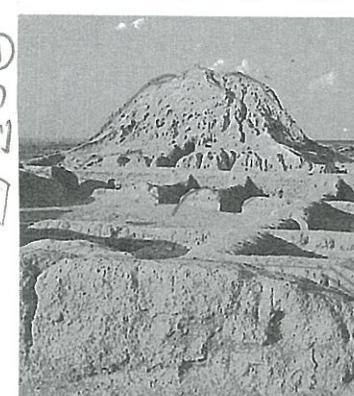
アスファルトが見えます。
のすきまには天然アスファルトが
がべ。日干しレンガの
ジックラトが見えます。



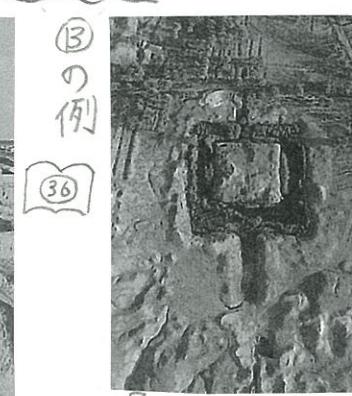
焼いても焼かなくても、日干しレンガはもとは泥のかたまりなので、時がたつにつれ、レンガは泥へとくずれていってしまいます。

だから、メソポタミアでは、ジックラトの改修工事を行うのが、王の仕事でした。こうしてジックラトは、王が改修をひきついでいる、後の時代にも残されました。

けれど、やはりほとんどは①たたの泥の山になってしまったり、③ジックラト自体なくなっていたり、上層部は失われてしまっていたりしています。④~~~~~



Ⓐの例



Ⓑの例



Ⓒの例



上層部を失われている
ウルのジックラト
泥の山になってしまって
ジックラトだったが分から
なくなったものもあるんだね。

(10) 泥の山になっている
アッシュールのジックラト

一層しか残っていない
バビロンのジックラト



徹底解剖 四 フラミング (ジグラトについて知ろう③)

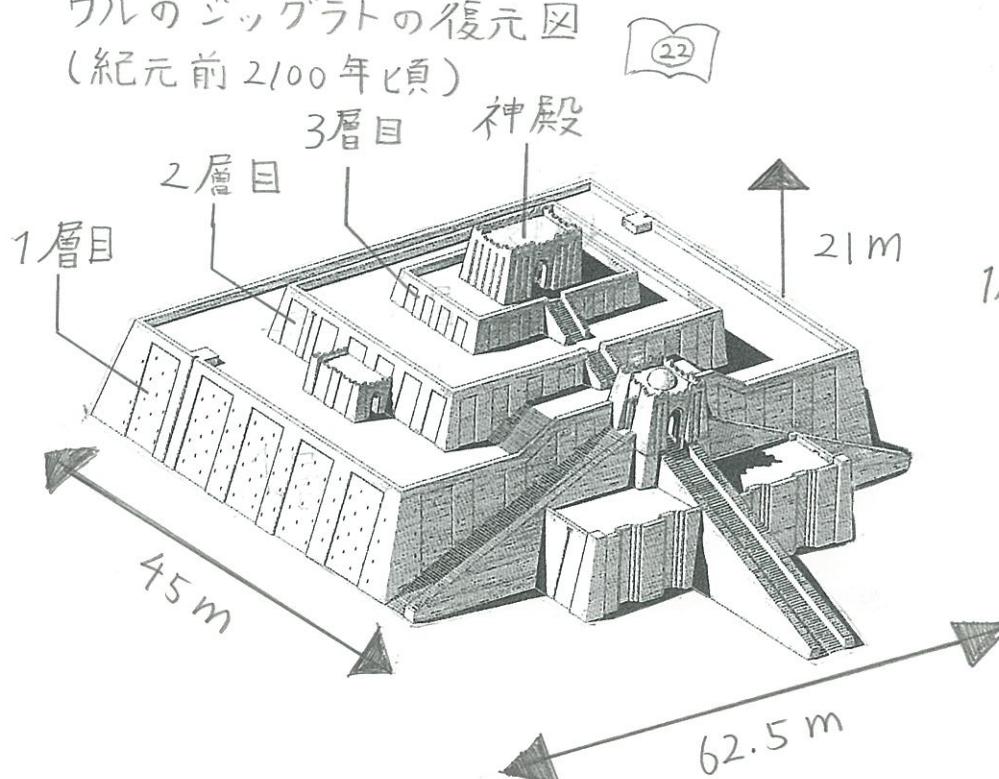
ジグラトってどんなつくりになっているの?

ジグラトは、階段ピラミッドとよばれるつくりをしていて、階段を使って上へとのぼることが出来ます。

高くなるほど層の大きさは小さくなっています、一番上には神殿がつくられています。

ジグラトの大きさ調べ

ウルのジグラトの復元図
(紀元前2100年頃)



3層に分かれている。

たて…45m

高さ…21m

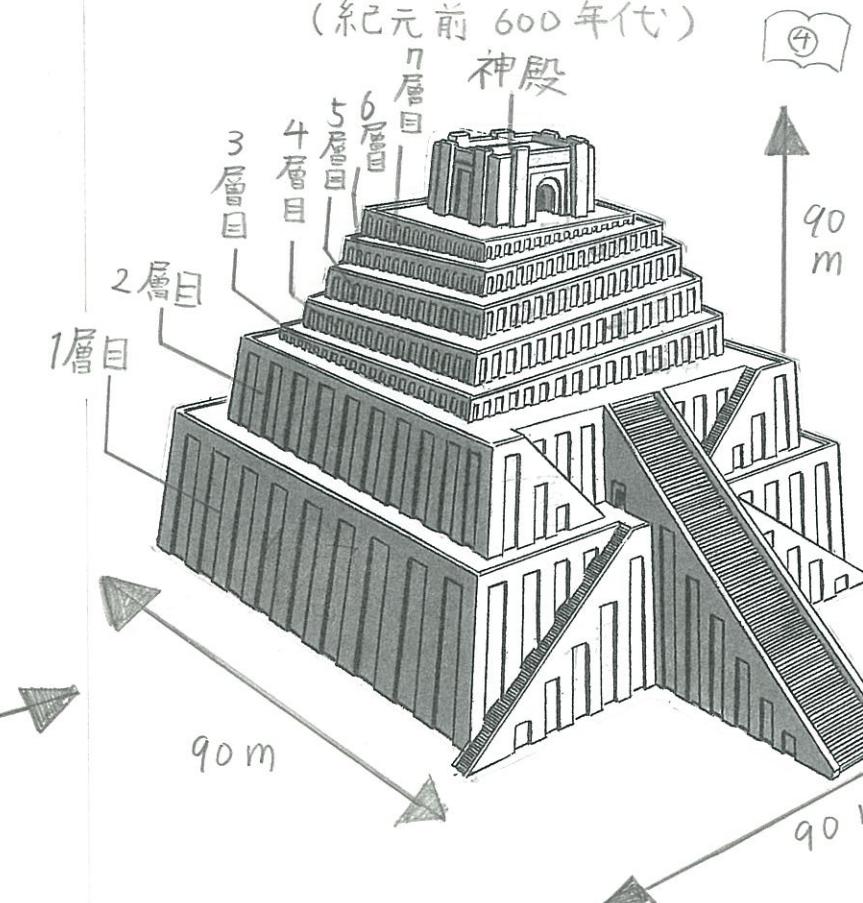
横…62.5m

ジグラトの高さ・大きさの時代による変化

ジグラトは、年代が進むほど、高く、大きく変化していきました。下の2つのジグラトもその例になります。

ウルのジグラトは、紀元前2100年頃につくられたもので、3層に分かれていて、高さは21mですが、紀元前600年代につくられたバビロンのジグラトは7層に分かれていますが、高さは90mです。新しくつくられた方が高く、層も多くなっていることが分かります。

バビロンのジグラトの復元図
(紀元前600年代)



7層に分かれている

1辺90mの立方体。

(11)

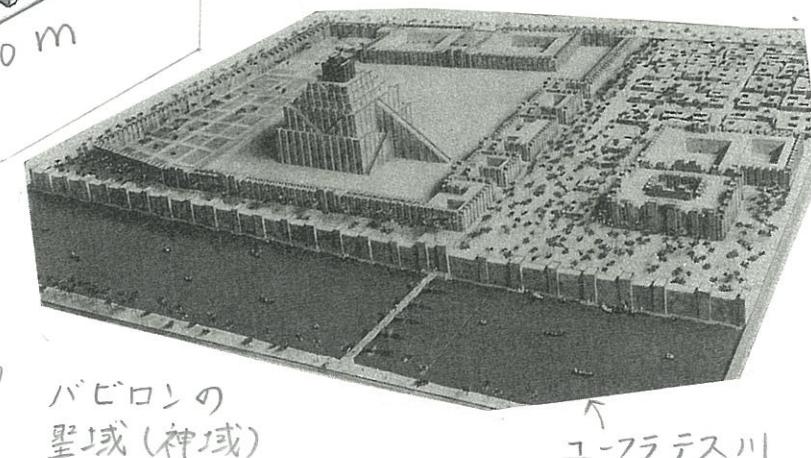
ジグラトと聖域

メソポタミア内の各地の都市では、ジグラトを中心に、大神殿をいくつか建て、それらをガベで囲んだ聖域(神域)がつくられました。

下の写真は、バビロンの聖域の復元図です。

紀元前にこんなリラックスした街がつくられていましたんですね!

(14)



バビロンの聖域(神域)

ユーフラテス川

ちょっとまって!

(16)

じゃあ、
ブリューケンレは、
ジックラトをモデルにして
『バベルの塔』を描いたってこと?

お詫の塔のモデルかい
ジックラトだからって、ブリューケンレ
の『バベルの塔』もジックラトを
モデルにしたとはかぎりませんよ。

(17)

(18)

確かにそうだね。
ブリューケンレの『バベルの塔』とジックラト
は形が全然ちがうね。だったら何を
モデルにしたのだろう。

少し
調べてみましょ。

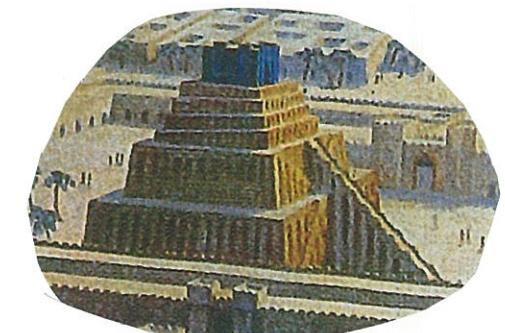
(19)

疑問

ブリューケンレは、『バベルの塔』を描くとき、何を
モデルにしたの?



1554年～1555年にブリューケンレ
が描いた『バベルの塔』



ジックラト

(17)

予想

上の、ブリューケンレの描いた『バベルの塔』と、ジックラトは
あまり似ていません。層になっていることや、上へ
行くほど層の大きさがだんだん小さくなっている様子
は似ていますが、ジックラトの大切な要素、「階段」がブリュ
ーケンレの絵には描かれていません。それにブリューケンレの
『バベルの塔』の構造は「フフ形」でジックラトは「四角」
です。

だから、ブリューケンレは、またちがう建造物を
モデルにして描いたと思います。



ブリューゲルがモデルにした建造物

ブリューゲルは、イラクの都市、サマッラーという場所にある「ミナレット」という建造物と、ローマ旅行をした時に見た、イタリアのローマにある円形競技場コロッセウムという建造物を見て、『バベルの塔』を描くためのイメージをふくらませたと言われています。

ミナレット？コロッセウム？

どんな建造物なのでしょう？

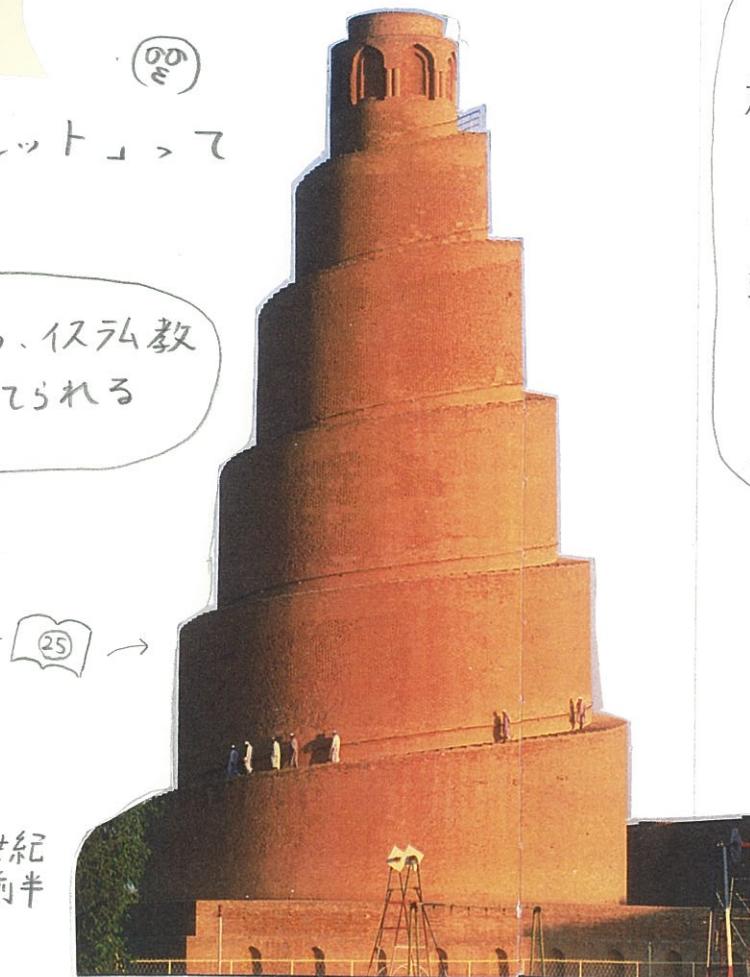
(25)

サマッラーの「ミナレット」ってどんな建造物？

ミナレットとは？

ミナレットは、「モスク」という、イスラム教の礼拝堂に付属して建てられる高い塔のことです。

場所…イラク、サマッラー



高さ…約55m

建てられた年…紀元後9世紀前半

使われている…レンガなど
材料

(25)



ローマのコロッセウムってどんな建造物？

場所…イタリア、ローマ



コロッセウムとは？

(26)

ローマにある円形の坑をした競技場です。ここでは、剣闘士と呼ばれる人同士が戦闘したり、キリスト教の人や罪人を猛獸に襲わせたりするを見せ物にしていました。座席と立ち見席合わせて5万人もの観客のための席が用意されました。

高さ…52m

建てられた年

…紀元後80年

使われている材料

…アスファルトなど

ブリューゲルは、ベルギーから、こんなに遠いところまで建物を見に来たんだね。

(26)

そういえば、美術展の説明の展示でヨーロッパの画家はよく、古い文明があつ南の方の地域へスケッチ旅行に行つた、ということを読んだことがあります。

(26)

『バベルの塔』の物語 徹底解説⑥ ノアの方舟

旧約聖書 創世記 「バベルの塔」の物語（部分）⑩

ヤハウェは言った。「みよ、彼らはひとつの人間であり、みなにはひとつの言語がある。そして、これこそ彼らがしはじめたことなのだ。いまや、彼らがしようとくわだててあらゆることをはばむものはない。さあ、われらはくだり、そこで彼らの言語を混乱させよう。そうすれば、彼らはたがいの言語をききとれなくなるだろう。」

この部分を読むと、ヤハウェ（イスラエル民族の神さま）は、人々の、塔を建て始めた行動に対して腹をたてている感じがします。

疑問

人々がせかく皆でまとまって、元気張って塔をつくっているのに、なぜ神さまはおこってしまったの？

旧約聖書の創世記について書かれた本で調べたら、創世記の『バベルの塔』の物語より前のお話と関係があることが分かりました。

そのお話とは、「ノアの方舟（箱船）」です。この洪水伝説の物語の中の神さまの言葉と関係がありました！

「ノアの方舟」？

「洪水伝説」？

どんなお話なんだろう。

あ、「ういえば美術館でこのお話の絵画を見たことがあります！」これも旧約聖書のお話だったのですね～！

「ノアの方舟」ってどんなお話？

「ノアの方舟」のあらすじ

神さまが世界で初めての人間、アダムとイブをつくり、地上には人間が増え、それと共に悪いこともたくさんきました。そのことに腹を立てた神さまは、地上の生き物すべてを大洪水によって滅ぼし、世界をリセットしようと思いました。

しかし、神さまは、元の正しい人、ノアに、「大きな方舟をつくり、その方舟に家族とすべての動物のオスとメスの夫がい 들어るように」と命じました。

40日間の大洪水でノアと家族以外のすべての人間、そしてすべての動物の夫がい一組ずつ以外のすべての生き物がみんな滅びました。

ノア達が方舟に入り、半年以上して、やっと水が引き、方舟は陸地につきました。神さまはノア達を「産めよ、増えよ、地上に満ちよ」と祝福しました。そして、洪水によって、世界を滅ぼすようなことはもうしない、と約束しました。



徹底解剖⑥ つづき 「産めよ、増えよ、地に満ちよ」

創世記「ノアの方舟」の神さまの言葉③

「産めよ、増えよ、地に満ちよ。」

謹業コーナー 地に満ちよとは？

「世界中の地に広がりなさい。」ということ。

このエフから分かること

塔をたてようとした人々(ノアの子孫)が神様から言われた祝福のことばにそむいていふことが分かる！

⑩ 旧約聖書 創世記『バベルの塔』の物語(部分)

「さあ、都市といただきが天にとどく塔をたてよう。私たちのために名をなしで、全地のおもてにちらされることがないようにしよう。」

神さまのいかりの理由を自分なりに考えてみました。

『バベルの塔』の物語で人々が天にとどくほど高い塔を建てはじめた時、神さまが腹をたてた理由は、「ノアの方舟」で神さまが「地に満ちよ」と祝福し、命じたことに對し、そむくようなことを人々がしきはじめたからだと考えられます。

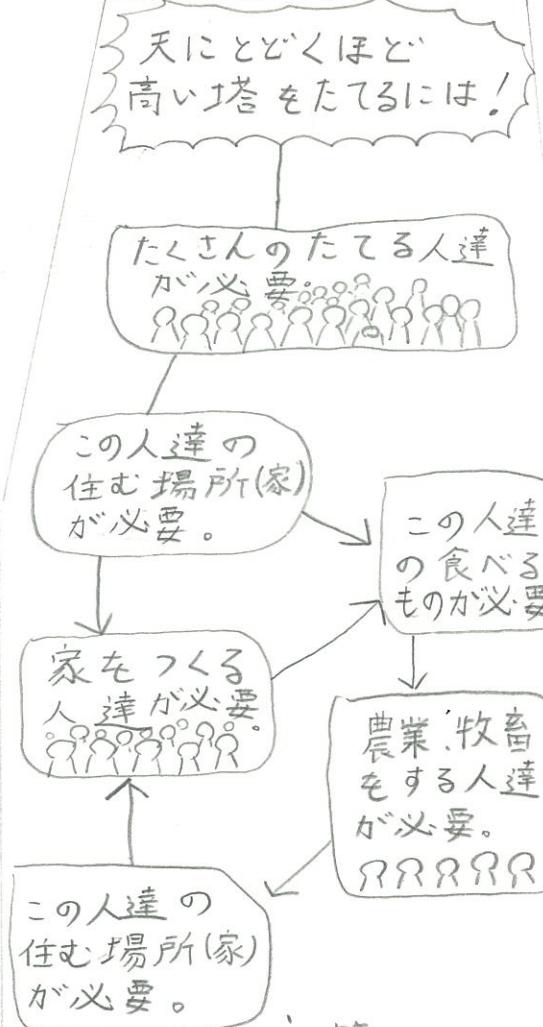
「なぜ天にとどくほど高い塔を建てることが、地に満ちよ、にそむくことになるの？」と疑問に思いましたが、右の図のようなしくみで人々がどんどん同じ地に集まってきてしまうのではないか、と考えました。

『バベルの塔』の物語の本文に「さあ、われらはくだり、そこで彼らの言語を混じさせよう。そうすれば、彼らはたがいの言語をききとれなくなるだらう。」(神さまのことばの一部)、「ヤハウェはそこから彼らを全地のおもてにちらした。」とあります。ここから、神さまは、人間を滅ぼすのではなく、言語をバラバラにし、人々が同じ地で一緒に住めないようにするために、人々を全地にちらしたのだと私は考えました。

今まで山つうに話していた
相手が急に何を言っている
のか分からなくなってしまった
ら、どうなるのだろう…?



かんちかいが起きて
ケンカになるかもしれないし、
大混乱にあういってしまう
でしょうね。



等々

昔は電車も自動車もなく、遠くから来た人は家に帰れないでの、住みこんで働いていたと思います。

『バベルの塔』の物語 徹底解剖 [7] ユダヤ人をとりまく言語

旧約聖書 創世記 『バベルの塔』の物語（部分）

全地がひとつ の言語、同じことはでき
あた 時である。

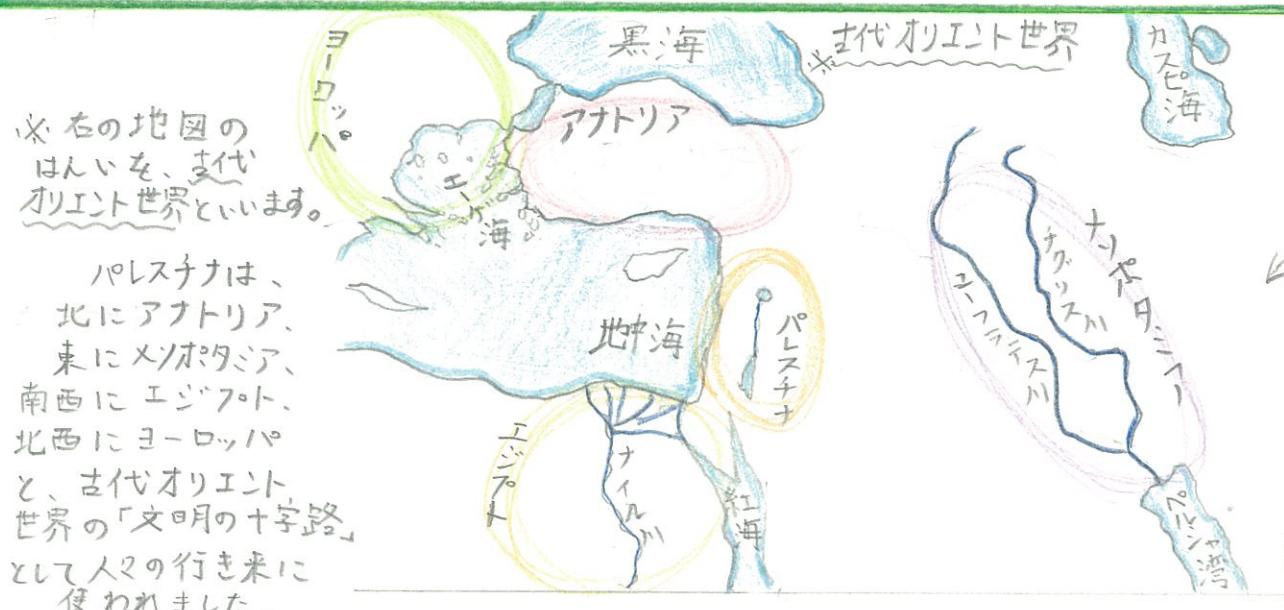
旧約聖書 創世記 『バベルの塔』の物語（部分）
(神さまのことば)

彼らの言語を混ざさせよう。

上のエフの部分から分かることは、「人々は、同じ言語を話して
いたけれど、神さまによって言語をバラバラにされ、混乱
してしまった」ということです。この文は当時のパレスチナ
の人達が持っていた、「なんでこんなに色々なことはを話す
人が世の中にはいるのだろう」という疑問に答えているの
だと思います。

旧約聖書には、人間が自然に持つ疑問に対し、回答や
説明をするという機能があるそうです。

人々の疑問に対して、『バベルの塔』の物語は「もともと
人々は同じ言語を話していたけれど、神さまのいが
りにふれるようなことを人々がしたため、言語をバラバラ
にされ、様々な言語が生まれた」と説明していると思います。



『バベルの塔』の物語の中に「言語」「ことは」のこ
とが多く書かれているのは、旧約聖書を書いたユダヤ人
がパレスチナとバビロンでどのような状態だったか
に関係があることが分かりました。

そのころのユダヤ人の置かれていた状態

『バベルの塔』の物語が書かれた時代、すでに世界には
様々な言語がありました。

「セム語」という言語グループ。

ヘブライ語、アラム語、フェニキア語、シリア語、
カナン語、アッカド語……

他にも、今のトルコのアナトリアや、エジプト、東のペルシア
高原では、「セム語」の言語グループとはだいぶちが
う言語が使われていました。

では、このような色々な言語がユダヤ人と何の
関係があるのか？

それは… パレスチナ地方がある位置に関係がありました。

パレスチナは、様々な地域に囲まれているため、早くから
色々な言葉を話す人が通る場所でした。だからユダヤ人
は色々な言語を聞いていたと考えられます。

そしてさらにバビロン捕囚で、当時栄えていた国際都市
バビロンに連れてこられて5、60年、さらに色々な言語を聞い
たと考えられます。

徹底解剖⑦ つづき

ユダヤ人はイスラエルの神、ヤハウェを深く信仰していて、ヤハウェが世界をつくったと信じています。

だから、ユダヤ人は、たくさんの言語を聞いているからこそ神に対して疑問に思いました。

「同じ人間なのに なぜ、神はひとつの中の言語だけにしなかったのか。」

『バベルの塔』の物語はその疑問に対して 答える、ということがひとつの目的としてつくられたお話だと考えられます。

知識

旧約聖書はほとんどヘブライ語で書かれている

4ページに書いたように、ユダヤ人が使用していたのはヘブライ語という言語です。

「セム語」の言語グループに入っていて、紀元前10世紀頃に、ヘブライ語で書かれた文書が見つかっているので、それより前にヘブライ語は生まれたと言われています。

旧約聖書に使われたのも、ほとんどヘブライ語です。

旧約聖書は、本当のことをもとにしたユダヤ人の物語集というだけではなく、人間が持っている疑問に答える機能もあるんだね。

(?)

『バベルの塔』の物語は、ユダヤ人が身边に色々な言語を聞いていたからこそできたお話なんですね。

(?)

でも、「それゆえその名をバベルとすんだ。ヤハウェがそこで全地の言語を混乱させたからである。」であるけど、言語が混乱したからバベル…ってどういうこと??

(?)

「言語」「混乱」というキーワードが「バベル」の意味なのではないでしょうか。

(?)

(?) 調べてみたい！

『バベルの塔』の物語 徹底解剖 ⑧ 「混乱の塔」

旧約聖書 創世記 バベルの塔(この物語の部分) ⑩

彼らはその都市をたてることをやめた。それゆえその名をバベルと呼んだ。ヤハウェがそこで全地の言語を混ましさせたからである。

疑問

「それゆえその名をバベルと呼んだ」という意味?



ヤハウェ(神さま)がこのお話に出てくる「人々」の使う言語をバラバラにしてしまい、おたがい何を言っているのが分からなくなり、人々は大混乱してしまいました。これにより、塔も建てられなくしました。

実はユダヤ人が使用していたヘブライ語で「混乱」は「バラル」といい、「バベルの塔」という呼び名は、この「バラル」をもじった一種のタジヤレだったんです!

おたがいの言っていることが分からなくなり、人々が大混乱してしまったので、人々が建てはじめた都市と塔は、「バベル」と呼ばれるようになった、ということです。

(18)

ヘブライ語の「混乱」という意味の「バラル」をもじったタジヤレが「バベル」?! それってどんなタジヤレ?!

「バラル」をもじって「バベル」と同じ種類のタジヤレの例
名古屋は昔、なごやかな人が多かったから、「なごや」とよばれるようになった!

④

疑問に対して調べて、分かったこと・思ったこと

ユダヤ人が使用していたヘブライ語で、「バベル」はメソポタミアの都市、「バビロン」を指しています。だから、「バベルの塔」は「バビロンの塔」と言うことが出来ます。しかし、左ののところを読んだら分かるように、「バベルの塔」という呼び名は、単に「バベルの都に建つ塔」の事を指すだけではなく、その言葉のウラには、ヘブライ語の「混乱(バラル)」という意味がこめられていました、ということが分かります。

つまり、「バベルの塔」という言葉には、「混乱の塔」という意味がこめられていましたんだな、と思いました。

なるほど～。少し
ヤヤこしいですね。

⑯

(18)

というか、大昔の紀元前からタジヤレってあったんだね。意外…。

バビロンの流れのほとりで

—旧約聖書『バベルの塔』に込められたユダヤの人々の思い—

今まで調べてきて考えた、バビロン捕囚でバビロンに連れてこられたユダヤ人がジックラトをみて何を思ったのか。

その後どのように『バベルの塔』の物語を書いたのか。

第二回バビロン捕囚のユダ王国滅亡の時、ユダ王国の首都エルサレムの神殿の他、全てのものをバビロニア王国は燃やしてしまいました。自分達の神さまの神殿を燃やされたユダヤ人達は、バビロニア王国をうらんだだらうな、と思いま。そして長旅でバビロンについた時、見たものが『バベルの塔』のモデルになったといわれるバビロンのジックラトだったのです。

ユダ王国が滅ぼされた頃、バビロニア王国は一番はん榮していたので、ユダヤ人達は下の写真のような栄えているバビロンの都を見たことと思います。この時ユダヤ人はうらみでいっぽい気持ちでこの都市を見たと考えられます。

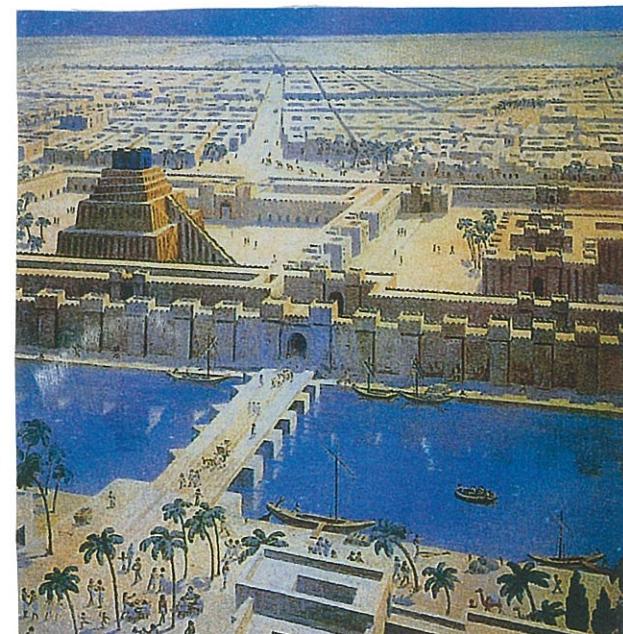
そして、特にユダヤ人達の目にとめたのは、その頃にしては天にとどくほど高い、高さ90mの異教の神をまつたジックラトだったと考えられます。しかも、ユダ王国の3回の捕囚を行い、ユダ王国を滅ぼしたバビロニア王国の王、ネブカドネザル2世という人は、

日干しレンガがくずれてしま、たバビロンのジックラトの改修工事を行、た王様でした。だから、捕囚されたユダヤ人達が、改修が終わったばかりのにかこかなくジックラトを目にした可能性は充分にあるそうです。自分達の国の神殿をこわされて心を痛めている時に、高い高いバビロンのジックラトを見たユダヤ人達は神に対してのバビロンの人々のごうまんさを感じて、さらにうらみが深くなつたと思われます。

さて、この出来事を知った上でもう一度改めて『バベルの塔』の物語を読んでみると、ユダヤ人のバビロニア王国への悔しい気持ちがはっきり分かってきます。特にそれが伝わってくるのが、「その名をバベルとよんだ。」の文です。徹底解剖図で「バベル」ということはの裏に（ダジャレたとしても）「混乱」という意味をかくれさせていたことが分かりました。バベルニバビロンの都市を悪い見本にするという意志が伝わってくるような感じがします。

また、『バベルの塔』の物語のあらすじは「おこり高ぶった人々がいい気になって天にとどくほど高い塔をたてはじめ、神のいかりに触れ、神によくてくずされてしまう」と書き表すことが出来ます。このあらすじも実際に起きたことを重ねています。

新バビロニア王国は、強国、新アッシリア帝国を滅ぼしてから、おこり高ぶり、ユダ王国を滅ぼさせて、



バビロンの都市の復元図 (19)

いい気になっていたかもしれないけれど、新バビロニア王国はたったの80年くらいで弱体化し、96年で滅亡しました。

年表にすると…

紀元前 一〇〇〇	七三二	六一五	さ九	五八七	五五〇	五三九	三三〇
新アッシリア帝国時代	パレスチナイスラエル王国滅亡	新アッシリア王国時代	新アッシリア王国滅亡	パレスチナユダ王国滅亡	アケメネス朝ペルシア時代	新バビロニア王国滅亡	アケメネス朝ペルシア弱体化

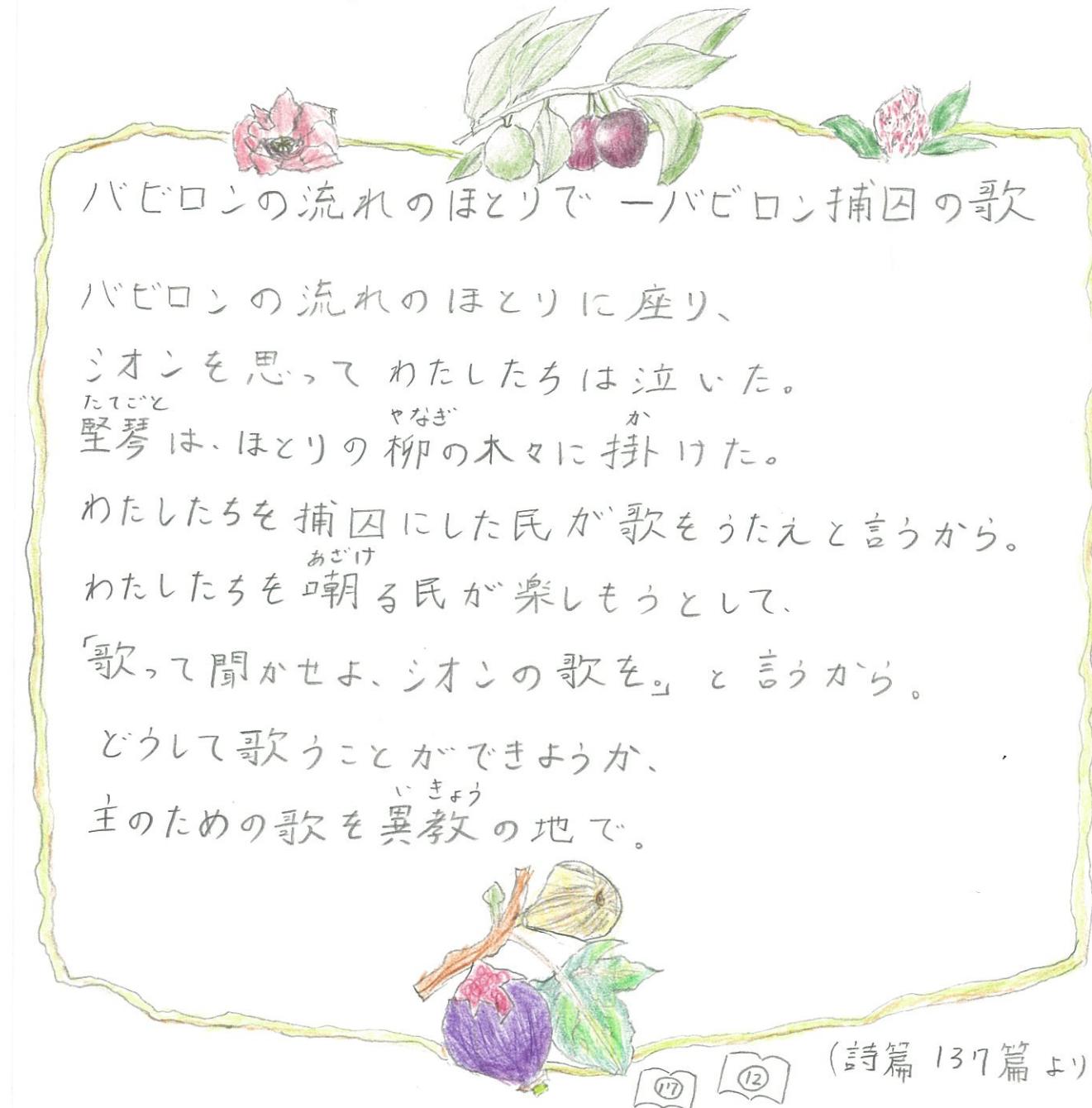
約500年 約80年 約200年

この様子をユダヤ人は「おごり高ぶると、新バビロニア王国みたいにすぐくずれてしまうよ。」ととらえて、「バベルの塔」の物語の内容に、教訓として取り入れたのではないかと思います。

しかし、それだけではないと考えました。「バベルの塔」の物語は、ただバビロンに対するひはんだけではなく、13ページに書いた、「人間が自然にもつ疑問に対し、回答や説明をする」という目的もあります。「バベルの塔」の物語は、「同じ人間なのになぜ神はひとつの一言語にしなかったのか」という疑問に答えるため、という目的も、このお話を書かれた理由のひとつだと考えられます。

このように、旧約聖書はユダヤ人が後のユダヤ人のために書いた、ユダヤの歴史書や教科書のような役割をもつ文書だったのだと思いました。

○ 1日約聖書の中の、「詩」が集まっている文書に、ユダヤ人のバビロンでの悲しみの歌があります。



シオン … 故郷のユダヤ王国の首都、エルサレムを指す。
たてごと

堅琴 … ハープという楽器。

あざけ 嘲る … 人をばかにして笑ったり、悪口を言ったりすること。

異教 … 自分とちがった宗教のこと。

わりに

『バベルの塔』の物語を細かく調べていくとき、古代の歴史の中の「戦争」や「滅亡」などのキーワードが重要になってきました。

古代では、他の国に攻めていくて占領したり、人々を無理矢理移住させて労働させたり、現在の日本から見ると、考えられないほど大変なことがあったのだなと分かりました。

学校で歴史を習ったとき、日本では弥生時代に小さなむらとむら同士の争いが起きていたと知り、「そんな昔から争ってあったんだ」とびっくりしました。けれど、同じ頃に古代オリエント世界では、こんなに文明が発達していて、大規模な戦争も起きていたんだ、と本当にありました。近代では第二次世界大戦、現在はウクライナ侵攻…と起きていますが、大昔から人々が争い事を起こすのは変わらないのだな、と思いました。

それと、人々は昔から変わらないのだな、と思ったことがもうひとつあります。それは「建造物」です。

メソポタミア内でたくさんつくられたジックラトは、ユダヤの人々から見たら、「神へのごうまん、ぼうとく」ととらえられてしましましたが、メソポタミアの人々は「高さ」と「宗教」を強く結びつけ、神に近づくために一生懸命、何十年、何百年もかけてジックラトをつくり上げていたわけです。

そして現在も、世界中の都市に立ちならぶ高層ビルの数々…。建てられた目的は古代とは全くちがいますが、人々はずっと昔から高い建造物を一生懸命つくり続けているのだと思いました。

『バベルの塔』の物語は、旧約聖書の中でもとても短い方の物語です。でも、そんな短い物語の文章が、私には分からぬことだらけでした。分からぬことにぶつかると、一つ一つ本の中

を探していました。調べていってみると、調べる前にイメージしていた以上にたくさんのことを知ることが出来ました。

『バベルの塔』の物語から、2500年以上昔の紀元前の歴史を背景に、ユダヤの人々の経験したこと、思っていたであろうことを、色々な人の書いた本を通して調べることで、当時の出来事、建物、言語…等、たくさんことを知ることができました。

はじめは知らないことが多すぎて、何度も何度もあちこち本を開いてみるでは確認し、分かってくるまでとても時間がかかりました。でもその作業がとても楽しかったです。途中から謎がだんだん解けていくような感じがして、もっとおもしろくなりました。

しかし、調べれば調べるほど、色々な知識がまだまだ出てくるので、自分はまだまだ知らないことだけだということを強く感じました。だから、これからも、もっともと奥へ奥へと調べていきたいです。

ブリューゲルの『バベルの塔』の絵をきっかけとして、今回こんなにたくさんの事を調べることが出来てとても楽しかったです。

調べた中で出てきたメソポタミア、四大文明、ジックラト、バビロン捕囚、古代の言語…等々まだまだもっと深く調べてみたいものがたくさんあります。

今回知ったメソポタミアの、自然、生活、民族についてもっと知りたくなりました。また、今回調べていて何度も出てきた『ギルガメッシュ叙事詩』や『ウルナム法典』等についても、調べてみたくなりました。

その他にも、他の三つの文明についても知りたいし、メソポタミアのジックラトとエジプトのピラミッドの比較もやってみたいですね。

それから、古代オリエントの建物について調べていたら、日本の昔の建造物についても勉強してみたくなりました。日本の古墳や寺等には何度も行ったことがあるけれど、もっとよく調べてから、また実際に見に行ってみたくなりました。

そして、今回きっかけになった、ブリューゲルの『ベベルの塔』のような宗教画を今まで美術館でたくさん観たことがあるので、それらのひとつひとつを、今回のようにまた徹底解剖していくこうと思います。

今回、南大沢図書館の方々には、本を探す度に、何度も助けていただきました。ありがとうございました。

これからも、大好きな図書館で色々な事を調べていこうと思います。今回の調べた事を機に、これから知っていく楽しみがたくさん増えました。

とても楽しかったです!!



参考・引用文献 (P.1)

	書名	著者名	出版社名	出版年
①	バベルの塔	かすや 昌宏 / 絵	至高社	2015年
		佐久間 雄 / 文		
②	おはなし名画をよむまえに② ブリューゲルのバベルの塔	西村 和子 / 編集・文	博雅堂出版	2010年
③	子どもに語る聖書	小塩 節・天沼春樹 / 訳	こぐま社	2009年
		ジェニー・ダーレンオーハード / 絵		
④	まんが世界なぞのなぞ⑥天にそびえるバベルの塔	たかし よいち / 原作	理論社	1994年
		吉川 豊 / 漫画		
⑤	眠れないほどおもしろい「聖書」の謎	並木 伸一郎	三笠書房	2012年
⑥	面白くてよくわかる!聖書	月本 昭男 / 監修	アスペクト	2010年
⑦	早わかり聖書	生田 哲	日本実業出版社	2009年
⑧	「知の再発見」双書93 絵で読む世界文化史 聖書入門	ピエール・ジベール / 著	創元社	2000年
		船本 弘毅 / 監修		
		遠藤 ゆかり / 訳		
⑨	ヨーロッパ文明の起源、聖書が伝える古代オリエントの世界	池上 英洋	筑摩書房	2017年
⑩	謎解き聖書物語	長谷川 修一	筑摩書房	2018年
⑪	聖書神話の解説 世界を知るための豊かな物語	西山 清	中央公論社	1998年
⑫	聖書の謎と真実 ——旧約 & 新約篇	小滝 透	PHP研究所	1999年
⑬	楽園を遠く離れて ——『創世記』を読みなおす	カレン・アームストロング / 著	柏書房	1997年
		高尾 利数 / 訳		
⑭	<旧約聖書 I> 創世記	月本 昭男 / 訳	岩波書店	1999年
⑮	旧約聖書 ものがたり	ジャック・ミュッセ / 著	創元社	1993年
		船本 弘毅 / 監修		
		田辺 希久子 / 訳		
⑯	集中講義 旧約聖書 「神教」の根源を見る	加藤 隆	NHK出版	2016年

参考・引用文献 (P.2)

	書名	著者名	出版社名	出版年
⑯	図説 聖書物語 旧約篇	山形 考夫/著 山形 美加/図版解説	河出書房新社	2001年
⑰	よくわかる 旧約聖書の歴史	樋口 進	日本基督教団出版局	2001年
⑱	新共同訳 旧約聖書 略解	木田 南一/監修	日本基督教団出版局	2001年
⑲	旧約新約 聖書時代史 —聖書歴史年表つき(別冊)—	山我 哲雄 佐藤 研	教文館	1992年
⑳	メソポタミア文明入門	中田 一郎	岩波書店	2007年
㉑	図説 メソポタミア文明	前川 和也/編著	河出書房新社	2011年
㉒	ナショナルジオグラフィック 考古学の探検 古代イラク 2つの大河とともに栄えたメソポタミア文明	ベス・グルーバー/著 トニー・ウィルキンソン/監修 日暮 雅通/訳	BL 出版	2013年
㉓	シュメール —人類最古の文明	小林 登志子	中央公論社	2005年
㉔	古代から近未来まで 世界の高層建築まるわかり事典	高松 伸/監修	PHP研究所	2008年
㉕	建築学の基礎③ 西洋建築史	桐敷 真次郎	共立出版	2001年
㉖	物語 イスラエルの歴史 アブラハムから中東戦争まで	高橋 正男	中央公論社	2008年
㉗	目で見る世界の国々① イスラエル	ステファン・C・ファインスタイル/著 石浜 みかる/訳	国土社	1996年
㉘	詳説 世界史研究 改訂版	木下 康彦/編 木村 靖二/編 吉田 寅/編	山川出版社	2010年
㉙	この一冊で世界の歴史が分かる! 国の興亡、民族の盛衰 — その時、歴史はどう動いたか?	水村 光男	三笠書房	1999年
㉚	知識ゼロからの世界史入門 3部 古代・中世史	菊地 陽太/監修	幻冬舎	2010年
㉛	鑑賞のための キリスト教美術大事典	早坂 優子	視覚デザイン研究所	2011年

	書名	著者名	出版社名	出版年
(33)	面白いほどよく分かる ユダヤ世界のすべて	中見 利男	日本文芸社	2004年
(34)	ユダヤ・アラブ 三〇〇〇年の闘い	吉村 作治 / 原案・監修 古城 武司 / 作画	TBSブリタニカ	1997年
(35)	キーワードで探る 四大文明	吉村 作治 / 編著 後藤 健 / 編著 松本 健 / 編著 近藤 英夫 / 編著 鶴間 和幸 / 編著 NHKスペシャル「四大文明」プロジェクト / 編著	日本放送出版協会	2001年
(36)	NHKスペシャル 四大文明 メソポタミア	松本 健 / 編著 NHKスペシャル「四大文明」プロジェクト / 編著	日本放送出版協会	2000年
(37)	文明のあけぼの 古代オリエントの世界	三笠宮 崇仁親王	集英社	2002年

- ①～⑦ 八王子市立 南大沢図書館
 ⑧ 八王子市立 緑が丘小学校 図書室
 ⑨～⑪ 私物

